

海洋生物科学科

学科の
詳しい情報
>>>>>

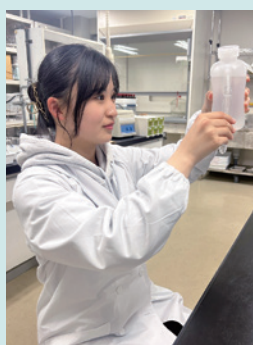


分類、生態、行動、生理、漁業管理、海洋学、プランクトン、軟体動物(貝類・頭足類) 節足動物(甲殻類)、刺胞動物(クラゲ・イソギンチャク)、海藻、魚類、海鳥 海棲哺乳類(クジラ・アザラシなど)、海洋環境、共生、生物資源、保全、比較解剖 捕食・被食関係、バイオリギング、海洋環境影響評価、海洋プラスチック、気候変動 バイオメカニクス、統計解析、繁殖、生活史、分析化学



生命の謎解き

水圏の生物学、特に海洋動物の形態、分類、生態、行動、生活史、進化、多様性を追求し、水圏生物とその生息環境を保全・管理し、水圏生物資源としていつまでも活用し続けるための基礎的事項と最新情報を学びます。海の生物の世界については、多くの生命の謎が隠されています。みなさん、水にすむ生き物の謎解きに挑戦してみませんか。そして生命の星“地球”と私たち自身の未来をこの学科でじっくり考えてみませんか。



海洋生物科学科 4年
玉本 くるみ

VOICE
学生の声

海洋生物科学科では、プランクトンから海棲哺乳類まで、さまざまな海の生き物を中心に、その生態や行動、資源量の変動などに注目した研究を行っています。また、海水中に溶けている酸素や二酸化炭素、海の生物生産を支えている栄養塩などを対象に、化学分析を用いた海洋環境分野の研究も行っています。この学科は、長期間外洋で海洋観測を行う乗船実習をはじめとした、実践的な学びの機会が多くあります。学科内の仲間と協力して行う実習・実験が多いため、自然と人脈が広がる点も大きな魅力です。

● 研究室の紹介

浮遊生物学

教員：松野



海洋生態系の始点である、植物プランクトン・動物プランクトンを対象に、北海道沿岸から北極海、深海まで幅広い研究を行っており、長期的な気候変動の海洋生態系への影響評価や、漁業被害のある赤潮の研究も行っています。歴史と伝統のある研究室です。

動物生態学

教員：和田・石原



水生動物と環境(同種・他種生物も含む)の関係や、動物のふるまい(行動、形態)や、生き様(生活史)を研究しています。海岸や川を歩いて調査したり、飼育観察や室内実験を行う研究室です。中心学問は行動生態学です。

水産資源学・鯨類学

教員：松石



全世界で持続可能な漁業を実現するために、入手可能な限られたデータから、資源量の推定法や乱獲を防止する漁獲方法を、フィールド調査と理論研究から提言します。また、漂着・混獲鯨類を調査し、生物多様性保全と漁業と鯨類の共存条件を模索します。

海洋環境科学

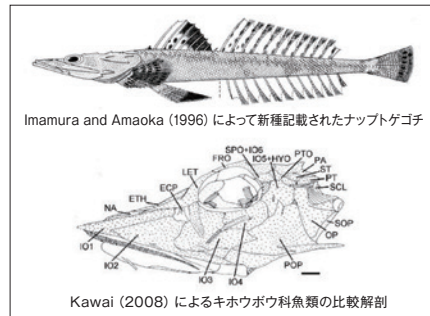
教員：大木・野村・芳村



海水中の炭素、窒素、リンなどの物質の動態は海の命を支える基盤であり、地球の気候にも影響します。河川から沿岸、外洋、北極、南極までを調査し、化学分析を駆使して、その仕組みを解き明かします。

魚類体系学

教員：今村・河合



「魚類の種多様性」を探索するフィールド・サイエンスとして、「形態学を基盤とした魚類の体系学」を研究しています。

資源生産学

教員：高津・中屋



水産資源の変動予測を実現するために、野外調査で水産生物の生態と生息環境を調査しています。また、飼育実験で水産生物の産卵・繁殖特性や初期生態などを解明しています。

資源生態学

教員：山村・ティエボ



大型魚類、海鳥類そして鰐脚類といった、海洋生態系で高い栄養段階に属する動物が、生態系で果たしている役割や、環境変動にどのように応答しているかを調べています。乗船や繁殖島でのフィールドワークに加えて、飼育実験による生理学的なアプローチも行っています。

海洋共生学

教員：工藤(秀)・パウア・秋田



海洋共生学講座のなかの「生物学ユニット」が、北方系水産生物資源(特に大型藻類、頭足類、サケ類)の持続的かつ地域特異的な利活用を目指す、基礎から応用までの生物学的・学際的研究を展開しています。

研究航海



おしよ丸の研究航海は水産学部4年生や大学院生が参加し、海洋物理、海洋化学、海洋生態を調査します。これまでに北極海への航海も実施してきました。